

「昭和 100 年」関連施策実地レポート

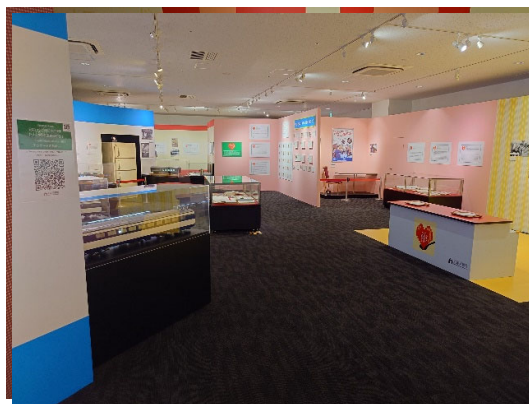
このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、京都府京都市下京区にある京都鉄道博物館です。

昭和 100 年記念企画展「やっぱり鉄道食がすき！～昭和の鉄道の食物語～」

URL：<https://www.kyotorailwaymuseum.jp/>

京都鉄道博物館は、蒸気機関車から新幹線まで貴重な実物車両の保存・展示をはじめ、鉄道の構造や歴史を体系的に学べる日本最大級の鉄道総合博物館です。館内は、ファミリー層や幼稚園、小学校などの遠足、さらには熱心な鉄道ファンにいたるまで、毎日幅広い層の来客で賑わうとのことで、視察に訪れた日も、幼稚園の遠足でやってきた子どもたちが歓声をあげながら見学しており、施設全体が活気に満ち溢れていました。同館では、「昭和 100 年」という記念すべき節目に合わせ、鉄道と食文化が密接に関わりながら大きく開花した昭和という時代に焦点を当てた企画展「やっぱり鉄道食がすき！～昭和の鉄道の食物語～」が、令和 8 年 5 月 16 日から 7 月 12 日まで開催されました。今回は、旅の大きな楽しみとして人々を魅了し続ける“鉄道食”の歴史を振り返る当企画展について視察しました。



企画展の会場である企画展示室では、昭和の豊かで活気あふれる鉄道食を象徴する資料や写真等が 4 つの魅力的なテーマで分かりやすく展示されていました。

「1. やっぱり歴史がすき！～鉄道と食にまつわる歩み～」では、明治 5 年（1872 年）の鉄道開業時から大正、昭和、平成、そして令和に至るまでの日本の歩みと、鉄道網の拡張が日本の食文化に与えた多大なる影響が体系的に解説されていました。昭和 30 年代に車内に掲出されたバリエースオレンジやアサヒシードルの鮮やかな吊りポスターなども展示され、多くの乗客へ情報を届ける貴重な発信メディアとして鉄道が果たした役割が浮き彫りにされていました。

◆京都鉄道博物館

「2. やっぱり食堂車がすき！～食堂車の発達とその種類～」では、食堂車のあゆみが紹介されており、格式高い富裕層のものだった戦前から、大衆化が進んだ戦後の高度経済成長期にいたるまでの変遷が、精密な1/20縮尺の車両（20系客車ナシ20形や0系新幹線電車36形など）の模型と共に立体的に展示されるとともに、新幹線の食堂車で提供されていたメニュー等がクイズ形式で展示されていました。また、それまでの石炭レンジや氷冷蔵庫に代わり、昭和36年（1961年）に登場したばかりの最新器具であった電子レンジや電気冷蔵庫をビュフェ車や食堂車へいち早く導入したことで、限られた車内スペースでの迅速な調理とオール電化による近代化が達成された軌跡は非常に興味深いものでした。

「3. やっぱりメニューがすき！～昭和の多種多様な食堂車メニュー～」では、戦後復活した特急「つばめ」や「はと」の定食から、昭和50年代後半の新幹線で朝の便に提供されて大好評を博した京風さけ雑炊や、きの子雑炊にいたるまで、世相を反映した多彩なメニューの現物が一堂に紹介されていました。国際航路の船舶で配布された美術品のような英語表記メニューや、当時の工夫を凝らした食堂車案内票なども見応えがあり、乗客のお腹と心を満たすために重ねられた様々な創意工夫が伝わってきました。

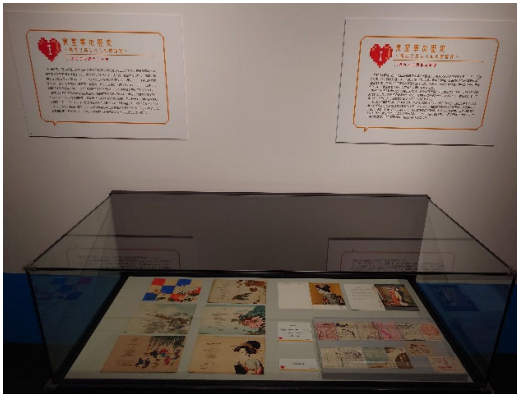
「4. やっぱり駅の食べ物がすき！～駅の食文化～」では、駅構内やホームでの食に焦点が当てられていました。大阪のうどんや名古屋のきしめんなど、地域に深く根差した駅で提供されていた麺類のあゆみや、昭和8年（1933年）に開始され、ホームで絶大な人気を博した立売営業の様子が写真で振り返られていました。また、鉄道の食を語るうえで欠かせない駅弁についても、その掛紙に着目し、明治期のシンプルな木版刷りから、大正・昭和初期の情緒豊かな多色刷り石版、そして戦後のカラフルなオフセット印刷にいたるまで様々な掛紙が多数展示されており、まさに日本固有の伝統的な食文化である駅弁の奥深さを伝えていました。

職員の方にもお話を伺いました。

今回の企画展においては、家族連れなど、老若男女問わず、あらゆる人が直感的に楽しめるように展示の構成や見せ方を随所に工夫しており、4つのテーマの中から、自身の好きなテーマをぜひ見つけてほしいと笑顔で語っていただきました。実際に会場では、カラフルな食堂車のメニューや模型をキラキラした目で見つめる子どもたちや、当時の写真を見て懐かしそうに思い出話をされているご年配の方々の姿が多く見られるそうです。



◆京都鉄道博物館



なお、企画展示室のすぐ隣の通路においては、京都府の「昭和 100 年」関連施策である写真展「昭和 100 年記念 鉄道今昔物語」が時期を同じくして開催されていました。この展示では、昭和 100 年を迎えるこの機会に、生活に密着した鉄道を通して京都のこれまでの歩みを振り返るため、JR 京都線、奈良線、山陰線、舞鶴線の主要な駅舎の姿が、昭和と令和の対比写真で分かりやすく紹介されており、京都の街並みの変遷を感じられる素晴らしい連携の取り組みとなっていました。



◆京都鉄道博物館

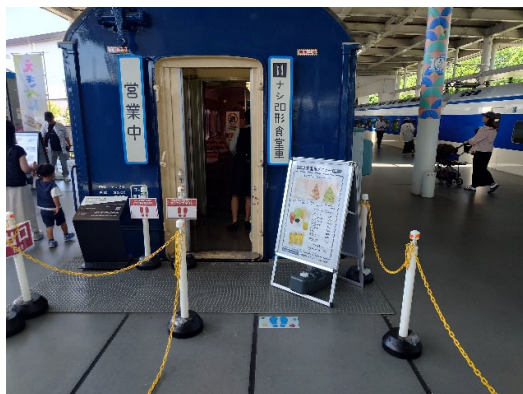
京都鉄道博物館は、今回の企画展以外にも、日本屈指の鉄道の総合博物館として、大迫力の鉄道ジオラマやリアルな運転シミュレータ、実物車両の展示など、一日では回りきれないほど本当に見どころが満載の施設です。企画展はこのレポートを書いている時点では終了していますが、常設の展示エリアには、日本の近代化を牽引した蒸気機関車をはじめ、昭和の高度経済成長のシンボルである0系新幹線電車や、かつて全国を駆け抜けた往年の特急列車の実物車両がずらりと立ち並び、昭和という時代の力強い息吹を随所で体感することができます。

さらに、屋外のプロムナードに展示されている貴重な寝台特急ブルートレインの食堂車（ナシ20形）では、当時実際に使用されていたノスタルジックな車内空間の中で、昭和の旅情に想いを馳せながら駅弁等を実際に味わうことができるなど、粋な体験型空間も用意されています。

大人にとっては懐かしく、子どもにとっては新しい発見に満ちたこの場所に、ぜひ皆さまも足を運んでみてはいかがでしょうか。きっと心もお腹も満足すると思います。



◆京都鉄道博物館



会期：令和8年5月16日（土）から7月12日（日）

主催：京都鉄道博物館

住所：京都府京都市下京区観喜寺町